

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス jam's西宮北口校					公表日	令和7年 2 月 19 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	生活空間は分かりやすくしているが、建物の構造的にバリアフリーではない	危険が無いように今後も出来る事はしていく		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		今後、行いたい		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援終了後に出来ない時は翌日にしている	パートスタッフ（週1勤務）との共有が課題。今後、回覧ノートなどで徹底していきたい	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		7		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7				㊸と同じく、回覧を徹底させる工夫(全スタッフが確認したかをチェックする係りを作る等)をしていく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		情報共有が必要かの確認を保護者様にしている	必要であれば行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		7			今後、必要であれば行いたい
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		保護者様からの相談事には対応しているが、研修会などは行っていないので、今後、必要であれば行っていきたい	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7				

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7			保護者様に保護者会が必要なアンケートをとり、必要であれば、行ってきたい
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	2	5	不定期にSNSやメールにて発信している		今後、定期的に通信等を発行してきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		7	おやつは持参・空間を分けるなどの工夫と、見守りは行っている。また、スタッフがエビベン講習等を受講している。		医師の指示書に基づく対応が必要であればしていく。積極的に講習会へ参加していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7				
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7					
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、保護者には事前に説明し、了解は得ている		子どもへの説明が出来ていないので、今後、行ってきたい	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス jam's西宮北口校		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士・精神保健福祉士・音楽療法士・5年以上の経験のある児童指導員・教員免許保有の児童指導員など、いろいろなスタッフがいるところ	それぞれの専門性を生かせるよう、曜日や時間などを工夫し、療育時間の確保するとともに、スタッフ全員で療育内容を検討・実施している	いろいろな視点から療育内容を考えられるよう、スタッフの話し合いの場を取っているが、今後、必要であれば増やしていく。記録の工夫もしていきたい。
2	個人の困りごとに対して、療育内容を考えている	その日のうち、または翌日には行った療育の振り返りを行うことで、スタッフが共通理解出来るようにしている	情報共有がしっかり出来る様、記録や伝達の方法を工夫したい
3	就学に向けた個別・集団療育をしている	小学校生活で起こりうる困りごとに対し、個別に予測し、対応できるように療育内容を組んでいる	必要に応じて関係機関と連絡を取り、個人の困り事や得意な事を把握し、サポート体勢を強化したい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフへの情報共有が口頭での伝達になりがち	スタッフが増え、週1勤務のスタッフや時短のスタッフとの情報共有が口頭だけだと抜けていたりする事もある	情報共有の為の記録(ノートなど)をつくり、全員が情報を把握・共有出来るようにしていく
2	地域との関りが少ない	平日利用の場合、デイに到着してから自宅に帰るまでの時間で、なかなか地域へ出ていく時間が取れない	長期休み等、時間が多く取れる時に地域と関りがもてるようにしたい
3	放課後等デイサービスと同じ空間・時間でバタバタ・ざわざわしてしまう時間がうまれる	落ち着いて活動出来る様に空間を分けたりしているが、ザワザワする時間がある(個別療育中、放デイの利用者が来所し、挨拶や荷物の整理などで大きな音がしている等)	同じ建物なので、完璧に空間を分ける事は出来ないが、静かに過ごせる工夫を考えたり、声かけをしていきたい

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスjams西宮北口校				公表日	令和7年 2月 19日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	生活空間は分かりやすくしているが、建物の構造的にバリアフリーではない	危険が無いように、今後も出来ることはしていく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		今後、行ってきたい	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援終了後に出来ない時は翌日にしている	パートスタッフ(週1勤務)との情報共有が課題。今後、回覧ノート等で、徹底していきたい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		必要であれば行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		必要であれば行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		必要であれば行っている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7		必要であれば、今後、行っていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		保護者様からの相談事には対応しているが、研修会などは行っていないので、今後、必要であれば行っていきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7			保護者様に保護者会が必要かのアンケートを取り、必要であれば行っていきたい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	5	不定期にSNSやメールにて発信している	今後、定期的に通信などを発行していきたい	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		7	おやつは持参・空間をわせる等の工夫と、見守りを行っている。また、スタッフがエビベン講習を受講している	医師の指示書に基づく対応が必要であればしていく。今後も、積極的に講習会へ参加する	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、保護者には事前に説明し了解を得ている	こどもへの説明は出来ていないので、今後、行っていきたい		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス jam's西宮北口校		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士・精神保健福祉士・音楽療法士・5年以上の経験のある児童指導員・教員免許保有の児童指導員など、いろいろなスタッフがいるところ	それぞれの専門性を生かせるよう、曜日や時間などを工夫し、療育時間の確保するとともに、スタッフ全員で療育内容を検討・実施している	いろいろな視点から療育内容を考えられるよう、スタッフの話し合いの場を取っているが、今後、必要であれば増やしていく。記録の工夫もしていきたい。
2	個人の困りごとに対して、療育内容を考えている	その日のうち、または翌日には行った療育の振り返りを行うことで、スタッフが共通理解出来るようにしている	情報共有がしっかり出来る様、記録や伝達の方法を工夫したい
3	学校で出された宿題を行う学習支援もしている	宿題をしっかりと見る事で、つまづいている所を把握。その後、療育内容に落とし込み、繰り返し学習し習得出来るようにしている	宿題は療育ではなく支援として行っているが、放デイでは必要な事なので、個々のつまづきに対して、プリント問題を作るなどしていきたい

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフへの情報共有が口頭での伝達になりがち	スタッフが増え、週1勤務のスタッフや時短のスタッフとの情報共有が口頭だけだと抜けていたりする事もある	情報共有の為に記録(ノートなど)をつくり、全員が情報を把握・共有出来るようにしていく
2	地域との関りが少ない	平日利用の場合、デイに到着してから自宅に帰るまでの時間で、なかなか地域へ出ていく時間が取れない	長期休み等、時間が多く取れる時に地域と関りがもてるようにしたい
3	児童発達支援と同じ空間・時間でバタバタ・ざわざわしてしまう時間がうまれる	落ち着いて活動出来る様に空間を分けたりしているが、ザワザワする時間がある(個別療育・宿題支援中に、児童発達支援の利用者が帰宅準備をする等で大きな音がしてしまう事もある)	同じ建物なので、完璧に空間を分ける事は出来ないが、静かに過ごせる工夫を考えたり、声かけをしていきたい